



宇宿(うしゆく)※方言名:ウスク・ウスイク

国指定史跡の「宇宿貝塚」があることで知られる宇宿集落。また、奄美大島の建築文化の特徴を伝える国指定重要文化財の古民家「泉家住宅」も存在します。灌漑施設が整備され、農業が盛んな集落であり、西方山麓までさとうきび畑が広がり、海の青・空の青とのコントラストがとても印象的です。



1 宇宿貝塚(国指定文化財)

宇宿貝塚は昭和8年に京都大学の三宅宗悦博士により発見された。昭和30年には九学会連合奄美調査委員会により発掘調査が行われた。昭和53年には貝塚の範囲確認調査が行われ、縄文時代並行期の石組住居跡や弥生時代並行期の母子埋葬人骨などが出土し、昭和61(1986)年10月7日に国史跡に指定された。



2 宇宿神社

宇宿神社は、住吉神社、菅原神社を合祀し、河口新左衛門が文政12(1829)年に建立した。明治18(1885)年以降に赤木名の戸長伊集院清と昇善道等により、崎原、土盛、宇宿、城間、万屋を含めた宇宿校区地区の氏神となった。毎年旧暦6月には、六月燈の祭礼を開き、家運隆盛、豊年満作を祈願する。



3 アストホゾン(拝地・イジュンゴ)

台地にあるソテツバテ(ソテツ畑)の麓に湧き出るイジュンゴは飲料水としても利用されるが、コタ神様などが禊(みそぎ)をする「アムイゴ」として聖水的な利用もされていた。このアストホゾンから宇宿貝塚のあたりは「クビキリヤウワ(首のない豚)が出没すると言われ、シマンチュからは畏れられている場所。



4 フースイ石

宇宿大瀬集落の眼前に広がる海岸には大きな岩が波打ち際にある。ひととき目立つこの岩は地域の人々から「フースイ石」と呼ばれている。昔から子供たちの遊び場であった。勇気を出して大きな岩に登り岩上から下のコモリ(潮溜まり)に飛び込むと一人前として扱われ、大人の仲間入りになる。



5 大瀬海岸

奄美大島は、季節の渡り鳥が北上、南下する際の重要な中継基地になっている。中でも宇宿前川河口に群生するヨシ類の植物と干潟、発達したリーフが広がる大瀬海岸は、ゴカイや小魚が豊富で、野鳥にとっても貴重な楽園。約120種類の留鳥・渡鳥が確認されている。



6 泉家住宅(国指定文化財)

泉家住宅は上屋(オモテ)、下屋(トゴラ)、高倉、珊瑚積石・囲井戸といった江戸後期の生活様式が現存し、今日まで使用されている。平成6(1994)年7月12日に国の重要文化財に指定され、大きなネタとケタを貫通させるヒキモン構造という伝統的な建築様式の建物が保存されている。



7 宇宿小学校構内遺跡

宇宿小学校が立地する砂丘は標高約12メートルで集落の高台をなす位置にある。一帯は墓地、宇宿神社などがあり、宇宿の聖地的な場所でもある。この砂丘は縄文時代前期並行期から後期並行期までの4枚の文化層からなっており、石囲住居址や前期の埋葬犬など貴重な資料も出土している。



8 宇宿稲すり踊り(市指定文化財)

以前は8月の豊年祭に収穫を終えて踊られていたが、現在は地域の人々の指導のもと、宇宿小学校の運動会で子供たちが継承している。踊りは婦人会が中心になり、文化祭や催し物でも余興として踊られている。稲の脱穀・舂すり・精米等の一連の所作を踊りに取り込んだもので、豊作に感謝する踊りである。